

目指す児童生徒像

主体的に学び、豊かに表現する児童生徒

重点目標

① 外国語、理科等の授業において「関心・意欲を持って取り組めた」児童生徒の割合を80%以上にする。

② 3つの達成目標「規律ある態度」の「⑩話を聞き発表する」小・中全学年で80%以上の達成率にする。

③ 3つの達成目標「体力」において、握力・ボール投げを向上させ、A・B・Cの合計が小学校は80%以上、中学校は85%以上の達成率にする。

平成25年度 事業計画

		重点目標との関連	主な取組	主な工夫・手立て
必須メニュー	「埼玉県小・中学校学習状況調査」結果や「教育に関する3つの達成目標」の検証結果の分析・活用	①②③	・三校合同研修会	・分析結果をもとに、三校の共通課題について情報を共有するとともに、さまざまな角度から具体的な対策を検討していく。
	9年間を見通したカリキュラムの編成	①②③	【編成する教科等】 ・理科 ・外国語活動・英語 ・体育・保健体育	・教科の内容、指導方法、小中の指導のつなぎ方について研究を進める。 ・「指導をつなぐ」では、主体的な学びに視点をおき指導形態、指導方法について研究を進める。
	児童生徒の交流（合同行事、合同授業等）	①②	・小学校6年生の中学校訪問 ・中学生による小学校での職場体験学習 ・サマースクール（小中交流） ・小・中交流陸上指導 ・音楽会、英語活動発表会の交流 ・特別支援学級の交流	・児童生徒が互いの学習成果を発表する機会を設定し、互いのよさを認め合わせるとともに、学習意欲の向上を図る。
	教職員の交流（合同研修、乗り入れ授業等）	①②③	・三校合同研修会（4回） ・中学校教員による出前授業（2回）	・授業力等の向上を図るため、合同研修会に指導者を招聘する。 ・授業の交流では、指導力の向上を目指し、異校種での指導方法や発達の段階に応じるための指導上の課題の理解を深める。
	小学校高学年の一部教科担任制	①②	〈東小 週14時間〉 ・4・5・6年理科 〈笠原小 週10時間〉 ・5・6年理科	【期待できる効果】 ・専科教員と担任によるチームティーチングは、組織的な取組が可能となり、児童のよさを活かすことができる。また、教員の専門性を生かした質の高い授業の創造と学力の向上を目指すことができる。
選択メニュー	小・中学校教員のチームティーチング	①②	・小6外国語活動 週2時間 百間中→東小 ・小6外国語活動 週2時間 百間中→笠原小	・学力の向上と児童が抱く中学校への不安解消を図るため、よりきめ細やかな指導を行う。

『小学校高学年での一部教科担任制（理科）』

1 視点・キーワード

- (1) 専科教員と担任によるチームティーチングの実施（二つの小学校の第4・5・6学年）
- (2) 学習状況の把握と小・中学校9年間を見通した指導方法の工夫改善
- (3) 学習器具、教材の共有化



中学校理科教員による
小学校理科授業（6学年）

2 概要（組織との関連、手順等）

- (1) 三校合同推進運営委員会で年間計画を作成する。
- (2) 各小学校で時間割の作成と単元等の調整を行う。
- (3) 小中一貫教育コーディネーターが授業日等の連絡調整を行う。
- (4) 専科教員と担任による授業を実施する。
- (5) 専科教員が、各学校の学年会等に参加し、次週の指導計画作成及び実験準備、教材作りを行う。
- (6) 評価テスト等の結果を分析する。
- (7) 課題や今後の取組を整理する。



小・中合同研修会

3 評価

- (1) 各学年における同じ学習内容での実験を行う際には、小学校間で実験器具や動植物等を貸し出すなどの共有をして、その活用を図ることで、個による実験が数多く可能となり、児童の関心・意欲が高まった。
- (2) 専科教員と各担任が、小・中学校における理科の授業の進め方を確認し、二つの小学校で、「課題—予想—計画準備—観察—実験—結果—考察—まとめ」の学習を共通実践したことで、中学校への指導のつなぎを意識した授業展開ができた。



合同授業研究会

4 主な課題と留意点

- (1) 専科教員が二つの小学校を兼務したため、担当学級の理科の授業時間の調整等が課題である。
- (2) 専科指導における T1、T2 の役割と9年間を見通した指導方法を、小・中学校の教員が共有し、工夫改善していく必要がある。



中学生による小学校での
職場体験学習